

# 3級技能検定(建築大工)の取り組み

岐阜県立国際たくみアカデミー 職業能力開発校 住宅建築科 石田 敏郎

## 1.はじめに

専門高校や職業訓練校などで技能を学ぶ学生や訓練生の技能修得意欲を増進させ、技能および職業に関する教育訓練の成果に対する社会一般の評価を高めることを目的とし、現在、3級技能検定が実施されている(1)。平成22年度、岐阜県立国際たくみアカデミー職業能力開発校 住宅建築科で、初めての試みとして、生徒がこの検定に挑んだ。この間の検定受検に向けての取り組みを報告する。

## 2.本校住宅建築科の概要

県立国際たくみアカデミーは、日本の真中の「へそ」にあたる岐阜県にあり、その中でも木曾川のほとり、旧中山道の宿場町太田宿として栄えた美濃加茂市に位置する。当アカデミーは、職業能力開発短期大学校と職業能力開発校(図1)より構成され、当科は短期課程として職業能力開発校に設置されている。当科は、昭和58年の建築科を発端に、科の見直し等を経て県内の建築大工技能者養成校の一つとして現在にいたっている。

当科のカリキュラムは、木造建築を中心に、時代の変化に対応した様々な工法と関連技術を学ぶことを目的とし、大工道具の手入れ、扱い方から模擬家屋の建築および壁、床、天井などの内装施工、模擬家屋の解体など新築からリフォームまでの実践的な訓練を実施している。従来まで当科で取得できる資格は、福祉住環境コーディネーター、小型建設機械講習、玉掛け技能講習およびガス溶接技能講習で

あったが、来年度より入校生の3級技能検定全員受検を実施する。その前の試行として、今年度は、技能検定を希望者に実施することとした。



図1 岐阜県立国際たくみアカデミー 職業能力開発校 本館校舎

## 3.学科試験の取り組み

今年度、住宅建築科の入校生は、新規中卒4名・高卒6名、離転職者(50～60歳台)6名の計16名である。このうち技能検定受検希望者である6名(高卒3名、離転職者3名(うち1名は2級))が受検した。

今年度の技能検定のスケジュールは、学科が実技より先行して行われるために、先に学科講習を実施した。学科講習に要した時間は、学科試験当日の3日前、実質6時間である。これは、建築大工技能検定が後期日程で行われることから、入校してから約10ヶ月間建築大工作業に携わり、訓練の蓄積があると考えためである。学科講習では、中央職業能力開発協会編の3級技能検定試験問題集を過去に振り返り3年分実施した。過去問題を見ると、いくつ



なければならない。一方、材の仕上がり加工長さ寸法が400mmと短いために、適切な作業姿勢を取ることが困難で、2つのほぞ穴掘り作業に約1時間弱を要する結果となった。このため、安全作業も考慮して、図3に示すように、材を所定寸法に切断する前の500mmの状態でのほぞ穴掘り作業をさせることとした。これより、ほぞ穴掘り作業で、大幅に時間短縮することが可能となった。



図3 短い材でのほぞ穴掘り作業

#### 4.3 タイムトライアル

墨付けから、木材加工、組立てまでの一連の流れ作業において本番を想定して、タイムトライアルを実施した。表2は、タイムトライアルを3回実施した結果を示したものである。目標時間をもとに結果を見ると、それぞれの行程における各生徒の得手不得手が、垣間見られる結果となった。しかし、墨付けや組立てに時間を費やした生徒も、木材の加工で時間を取り戻す結果となり、3回ともすべて規定時間内に収まった。

また、組立ての精度を確認すると、全員の生徒が、図4に示すように、直角を測定しながら丁寧に組立てを行っており、皆、高い精度で作品を組立てていることがうかがえた。

表2 タイムトライアルの結果

	第1回目	第2回目	第3回目
A君 墨付け 木材加工 組立て	2時間35分 (38分) (112分) (15分)	2時間20分 (35分) (90分) (15分)	2時間32分 (33分) (105分) (14分)
B君 墨付け 木材加工 組立て	2時間42分 (45分) (100分) (17分)	2時間44分 (47分) (99分) (18分)	2時間40分 (43分) (100分) (17分)
C君 墨付け 木材加工 組立て	2時間38分 (50分) (90分) (18分)	2時間40分 (47分) (93分) (20分)	2時間35分 (45分) (91分) (19分)
D君 墨付け 木材加工 組立て	2時間39分 (39分) (105分) (15分)	2時間35分 (32分) (105分) (18分)	2時間37分 (35分) (102分) (20分)
E君 墨付け 木材加工 組立て	—	—	2時間45分 (45分) (98分) (22分)

—：欠席

## 5. 実技試験

実技試験は、普段の訓練で実習として使っている場所が会場となり、実施された(図5)。試験当日、生徒達はホームグラウンドと言うこともあってか、会場の雰囲気にもまれることなく、練習の成果が十分に発揮できたと確信している(図6)。そして、受検者5名全員が、規定時間内に精度よく課題を完成させることができた。

## 6. おわりに

平成23年3月15日、技能検定3級合格発表当日、岐阜県職業能力開発協会ホームページにより、合格者の受検番号を確認した。その結果、受検生5名全員が、新たに3級建築大工技能士の仲間入りをする

ことができた。この日は、おりしも修了式が行われ、受検生にとっては、修了式に花を添えるうれしい結果となった。

今回の技能検定の受検により、生徒達は、ものづくりの楽しさ・完成させた時の達成感・充実感等を実感できたのではないかと私自身感じている。同時に、この合格が、今後、社会生活において大きな自信につながるものと確信している。そして、これを機会に生徒自身が、さらに腕を磨き、上の級へ挑戦していくための布石となることを期待する。

今回、住宅建築科で初めての試みとして実施された技能検定であり、限られた時間で、試行錯誤の中、学科・実技試験対策が行われた。今年度の反省点や経験を活かし、平成23年度以降、技能検定3級全員受検・全員合格に向けて、取り組んでいきたい。

終わりに、今年度受検した生徒の感想を記す。

- ・実技は、練習の回数をこなさないといけない。
- ・毎日の練習の積み重ねが大切であることが分かった。
- ・学科試験は、比較的やさしい出題だった。

最後に、この検定受検にあたりお世話になりました関係各位に謝意を表します。

#### 〈参考文献〉

(1) 厚生労働省ホームページ「3級技能検定」より



図4 精度よく組み立てる



図5 技能検定実技試験に臨む生徒達



図6 技能検定実技試験風景